

## 令和7年度第2回気象庁入札監視委員会 審議概要

開催日及び場所	令和8年2月20日(金)気象庁会議室	
委員	委員長 安田 恵 (公認会計士)	委員 遠藤 和義 (工学院大学教授)
	委員 横山 幸太 (弁護士)	
審議対象期間	令和7年4月1日～令和7年9月30日	
契約の現状の説明等	入札・契約手続の運用状況等の報告	
総抽出案件	4件	〈備考〉
工事	一般競争	0件
	指名競争	0件
	随意契約	0件
建設コンサルタント業務等	一般競争	1件
	指名競争	0件
	随意契約	0件
物品・役務等	一般競争	3件
	指名競争	0件
	随意契約	0件
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし	

意見・質問	回答
1. 入札・契約手続の運用状況等の報告	
意見等なし	
2. 東京管区気象台 雷監視システム検知局基礎等工事実施設計（東京管区気象台） 【建設コンサルタント業務等、一般競争入札】	
<p>本件では落札業者(A社)ともう1者(B社)から調査見積を取得したとのことだが、B社は審議対象期間における落札実績がない。調査見積取得業者として適切だったのか。</p> <p>業者同士の遠慮のようなものがないよう、十分留意する必要がある。</p>	<p>調査見積の依頼は他者に対しても行っており、今回、C社からの提出はなかったものの、C社は別案件で落札した実績があり、このときの入札ではA社も参加していたため、調査見積の取得において競争性が担保できていないという認識はない。</p> <p>他機関の例を参考とし、調達時期を変える等を検討しながら、より一層、競争性の確保に努める。</p>
3. 保安警備業務（気象研究所） 【物品・役務等、一般競争入札】	
<p>審議対象期間における警備の他案件と比較すると、気象研究所だけが1者応札で、他の3官署は複数者応札がなされている。いずれも東京の業者が落札しているにもかかわらず、気象研究所だけが7年連続1者応札になっているという差はなぜ生まれているのか。</p> <p>警備業者は多数あると思うが、声掛けの対象を広げるといったことは検討するのか。</p>	<p>他者にも声掛けはしていたが、気象研究所の周辺には研究機関が多数あり、施設が大きく常駐警備としている機関のほうに契約の規模が大きいため、そちらのほうに人員を取られてしまうということが1者応札の要因として考えられる。</p> <p>令和8年度調達では広く声掛けを行い、3者による応札があった。</p>
4. 気象情報伝送処理システムの制作及び気象庁情報システム基盤等への導入調整並びに保守（気象庁本庁） 【物品・役務等、一般競争入札】	
<p>構築に係る入札価格内訳書を見ると、67%も出精値引をしているが、どの項目でいくら値引きしたというのは分からないのか。</p> <p>予定価格のギリギリで落札しているが、過去の入札の実績に基づいて、業者が推察しているということか。</p> <p>見積りを出してもらったときに、出精値引は認められるとのことだが、そうすると、見積りを徴取する意味はあるのか。</p>	<p>落札業者によると、出精値引の内訳の回答は難しいとのことだった。</p> <p>そのように考えている。</p> <p>基本的に、予定価格を作成する際に徴取する見積りには出精値引は含まれていない。</p>

5. ハイパフォーマンス・コンピューティング・クラウドサービスの提供（気象庁本庁）

【物品・役務等、一般競争入札】

利用予定期間が 60 ヶ月とされているが、根拠はあるのか。

本件の入札価格内訳書では、出精値引がない内訳となっているが、業者によって取扱いが異なるのか。

業者によって出精値引の取扱いが異なるとのことだが、工数が増えて変更契約する際に出精値引をする前の単価を使用するようなことはないか。

現在使用しているスーパーコンピュータの運用期間と終期を揃えるために 60 ヶ月としている。

そのように考えている。

そのようなことはない。

6. 審議の結果

「入札時期の平準化」及び「出精値引関係」について、継続的に検討いただきたい。